

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合 4月1日～6月20日 9月11日～11月20日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フォーム cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	- %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	- kg/m ³
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	- cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	-			
混和材	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	-	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40～20mm	7.95	-	2.63	0.5±0.5
	③	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	-	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	A E 減水剤		Na ₂ Oeq %		1.0	
混和剤②		-			-		%		-	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	- %	水の区分	上澄水		目標スラッジ 固形分率	- %	
回収骨材の使用法	細骨材	-		粗骨材	-		安定化スラッジ水の使用の有・無			

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	2.30	
水セメント比		56.0 %		水結合材比		%		細骨材率	46.0 %	

備考

骨材の質量配合割合, 混和剤の使用量については, 断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング又はスラングフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 24 = 30.0$			30.0 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m ³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m ³
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 288 \div 3.04 = 95$			95 ℓ/m ³
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m ³
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699$			699 ℓ/m ³
細骨材率	s/a	当工場の実績により			46.0 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 699 \times 46.0(\%) = 322$			322 ℓ/m ³
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 60(\%) = 193$			193 ℓ/m ³
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 40(\%) = 129$			129 ℓ/m ³
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.56) = 494$			494 kg/m ³
S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.66) = 343$			343 kg/m ³	
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 699 - 322 = 377$			377 ℓ/m ³
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.63) = 992$			992 kg/m ³
	G1	① $G1 = G \times 30(\%) = 297$			297 kg/m ³
	G2	② $G2 = G \times 40(\%) = 397$			397 kg/m ³
G3	③ $G3 = G \times 30(\%) = 298$			298 kg/m ³	
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 288 \times 0.80(\%) = 2.30$			2.30 kg/m ³

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	2.30	
水セメント比		56.0 %	水結合材比			%			細骨材率	46.0 %

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023年 4月 1日

有限会社 エイブル 生コン工場
 広島県三次市高杉町1470番地の3
 TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909
 配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	夏季修正標準配合 6月21日～9月10日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプフロー ^{cm}	粗骨材の最大寸法 ^{mm}	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m ³
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—			
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は集積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40～20mm	7.95	—	2.63	0.5±0.5
	③	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	—	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックRV10L		種類	AE減水剤		Na ₂ Oeq %	0.9		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水		目標スランプ [°] 固形分率	— %	
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—	安定化スラッジ水の使用の有・無					

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	2.88	
水セメント比		56.0 %		水結合材比		%		細骨材率	46.0 %	

備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ°又はスランブ°フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22 \quad \alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	m = α × SL = 1.25 × 24 = 30.0			30.0 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m ³
単位セメント量	C	C = $\frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m ³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 288 ÷ 3.04 = 95			95 ℓ/m ³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45			45 ℓ/m ³
骨材の絶対容積	Va	Va = 設計容積 - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699			699 ℓ/m ³
細骨材率	s/a	当工場の実績により			46.0 %
単位細骨材量	Sv	Sv = Va × s/a (%) = 699 × 46.0(%) = 322			322 ℓ/m ³
	Sv1	① Sv1 = Sv × 60(%) = 193			193 ℓ/m ³
	Sv2	② Sv2 = Sv × 40(%) = 129			129 ℓ/m ³
	S1 S2	① S1 = Sv1 × 密度(2.56) = 494 ② S2 = Sv2 × 密度(2.66) = 343			494 kg/m ³ 343 kg/m ³
単位粗骨材量	Gv	Gv = Va - Sv = 699 - 322 = 377			377 ℓ/m ³
	G	G = Gv × 密度(2.63) = 992			992 kg/m ³
	G1	① G1 = G × 30(%) = 297			297 kg/m ³
	G2 G3	② G2 = G × 40(%) = 397 ③ G3 = G × 30(%) = 298			397 kg/m ³ 298 kg/m ³
単位混和剤量	AE	AE = C × 添加率(%) = 288 × 1.00(%) = 2.88			2.88 kg/m ³

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	2.88	
水セメント比		56.0 %	水結合材比			%		細骨材率	46.0 %	

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

(有)エイブル 生コン工場 殿

2023 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者: 片山 一夫

工事名称	自社
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	冬季修正標準配合 11月21日～3月31日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプ [°] フリー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m ³
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ増大量	— cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率 又は 実積率	密度 g/cm ³		微粒分量 の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.53	2.56	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.90	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40～20mm	7.95	—	2.63	0.5±0.5
	③	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	15～5mm	6.30	—	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤		Na ₂ Oeq		1.0	
混和剤②		—			—		%		—	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水		目標スラッジ固形分率	— %	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		安定化スラッジ水の使用の有・無			

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	1.73	
水セメント比		56.0 %		水結合材比		%		細骨材率		46.0 %

備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフォーム cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 24 = 30.0$			30.0 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m ³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m ³
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 288 \div 3.04 = 95$			95 ℓ/m ³
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m ³
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699$			699 ℓ/m ³
細骨材率	s/a	当工場の実績により			46.0 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 699 \times 46.0(\%) = 322$			322 ℓ/m ³
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 60(\%) = 193$			193 ℓ/m ³
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 40(\%) = 129$			129 ℓ/m ³
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.56) = 494$			494 kg/m ³
S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.66) = 343$			343 kg/m ³	
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 699 - 322 = 377$			377 ℓ/m ³
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.63) = 992$			992 kg/m ³
	G1	① $G1 = G \times 30(\%) = 297$			297 kg/m ³
	G2	② $G2 = G \times 40(\%) = 397$			397 kg/m ³
G3	③ $G3 = G \times 30(\%) = 298$			298 kg/m ³	
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 288 \times 0.60(\%) = 1.73$			1.73 kg/m ³

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	494	343		297	397	298	1.73	
水セメント比		56.0 %	水結合材比			% 細骨材率		46.0 %		

備考